

概要について

(1)名称

No.	所有者	名称	所在の場所	構造、形式及び大きさ	建築年代	登録基準
1	群馬県	群馬県立沼田高等学校管理 教室棟（旧沼田中学校校 舎）	西原新町 1510	○鉄筋コンクリート造3階 建一部地下1階建 ○建築面積921㎡ ○塔屋付	昭和3年（1928）	国土の歴史 的景観に寄 与している もの
2	群馬県	群馬県立沼田高等学校屋内 運動場（旧沼田中学校講 堂）	西原新町 1510	○鉄骨造及び鉄骨鉄筋コン クリート造2階建 ○建築面積380㎡	昭和3年（1928）	国土の歴史 的景観に寄 与している もの

(2)沼田高等学校及び建造物の建設について

明治30年
（1897）
明治33年
（1900）
明治45年
（1912）

群馬県尋常中学校利根分校創立

群馬県立前橋中学校利根分校に改称

群馬県立沼田中学校として独立

※ 大正14年10～11月
（1925）

沼田中学校校舎新築移転について、県負担分の不足分の地元負担分（校舎建設費の半額と敷地）を利根郡16か町村が協議し、沼田町は建設設備費の半額と敷地全額を、15か村は建設設備費半額を負担することを決定

大正14年12月
（1925）

通常県会に、学級増による教室不足、校舎の老朽化のため沼田中学校新築移転議案が上程

大正15年8月末
（1926）

新校舎建設地をそれまでの西倉内町（沼田小学校西校庭）から現在の西原新町に新築移転することが決定

昭和2年7月1日
（1927）

沼田中学校校舎及び講堂（当該文化財）起工

**昭和3年5月20日
（1928）**

沼田中学校校舎及び講堂（当該文化財）竣工

昭和3年7月
（1928）

校舎新築についての祝賀行事。参観者18,957名

昭和23年4月
（1948）

学制改革により群馬県立沼田高等学校と改称し現在に至る

※ 負担額は、沼田町一人当たり7円強、利根郡一人当たり2円弱。当時の日雇い賃金が約2円であり、その額の大きさは世界恐慌が迫り来る不況下において、極めて大きかった。

概要について

(3) 共通の特徴

- ① 当時の最新式の構造で建てられた建築である。
【管理教室棟】群馬県最古級の鉄筋コンクリート造の学校建築である。
【屋内運動場】混合構造の建築である。(鉄骨造り・鉄骨鉄筋コンクリート造等)
- ② 国際様式であるモダニズム建築の外観を呈する。
- ③ 利根沼田はもとより、群馬県の教育史、及び学校建築史を語る上に欠かせない建物である。
- ④ 利根沼田のランドマークといえる建物である。

(3)－1 管理教室棟の特徴

東接する屋内運動場と一体の建築として建てられた。構造は鉄筋コンクリート造3階建（一部地下1階・塔屋付）である。規模は、桁行67.2m、梁行10.0mで、道路側の北面を正面とする。建築面積は921㎡（1階床面積）。普通教室10教室、特別教室5教室、管理諸室等を設けていた。

塔屋は鐘楼（鐘堂）と呼ばれ、上層に卒業生森村西三（もりむら・とりぞう。鑄金工芸家・彫刻家。高崎観音山白衣観音の原型制作者）による大鐘と4個の小鐘からなる「五常の鐘」を配置していた。

管理教室棟は、県内最古級の鉄筋コンクリート造りの学校建築である。塔屋部分を中心に左右対称に広がり、外観は装飾を排した簡素で平坦な、比較的現代的な意匠とするが、玄関周りや階段ホールなどにアールデコ風の装飾が見られる。

内部は天井高があり、正面階段の格調高い重量感のあるデザインは、入ってきた者を圧倒する。衛生設備も、当時としては例のない水洗トイレを設けていた。

(3)－2 屋内運動場の特徴

当初の呼称は「講堂」であり、2階を講堂、1階を武道場としたが、現在は1・2階とも屋内運動場として使用している。

梁を鉄骨トラス構造（2階床は水平、小屋組はアーチ状）で、柱を鉄骨鉄筋コンクリート、2階床は木床とする混合構造の2階建である。屋根は、寄棟造金属板張り（当初のアーチ状金属板張りの上に新たに設置）とする。室内の仕上げは、音響を考慮した材料で仕上げていた。規模は桁行24.5m、梁行15.5m。建築面積は380㎡（1階床面積）。

管理教室棟



管理教室棟の正面玄関及び階段

